

一説より積是をある處を記し後年又
中庭之跡は移されしといふ云々の
といふ中庭の跡の異名とを又家作の記に
由利下向し時吟しとあるは

あるは源もなひと流り川柳

といふ有り詞書に館長門を版しと
有りは人部と見えし一語句の所を考れば
は人の館ハ川の邊りと見えしなり
あしを考へて
とい姓なりと見えしなり川を
考へし一語句又年異州岩場の城を山石

忠江邦彦平氏諱

由利を相伝きしと見えしなり

下は館を築出伊豫守版と見えしなり又古人
の記より元和九年岩場但守版由利を
相伝きしと見えしなり

武鑑其の長又年より岩場貞隆以後伝き
とあり

一八 懐宮

川内を松ヶ崎村より代々の城とす殿の
社なり社領三十石祖父末田氏由利信飛井山
八幡宮といふ又天満寺と云ふを稱し社